

# 第5学年 国語科学習指導案

指導者 和木町立和木小学校 教諭 福屋 憲道

1 単元名 いろいろな環境問題について調べよう  
 題材名 森林のおくりもの

2 本時の指導 ( 3 / 1 2 )

(1) ねらい 第1段落と第2段落(形式段落)の働きに着目することによって、森林の恩恵を受け取ってきた理由を考えることができる。

(2) 準備 センテンスカード、さし絵、円グラフ

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	教師の支援と評価
つかむ	1 題名をもとにして、読みのめあてをつかむことができる。 森林のおくりもの 誰が 森林・森・自然 誰に 私たち・人間・日本人 何を 学習のねらい(読みのめあて)おくってくれている。	「おくりもの」という題名の言葉をもとにして、送る側・送られる側・送るものの3つの視点を提示する。  森林から何が贈られてきたのかをつかむことが学習のめあてであることを理解させる。
森林からの「おくりもの」について考えよう		
考える	2 1段落から5段落を読み、森林からの贈り物について考える。 連続テキスト 木の家、木の橋、おわん、お盆、しゃもじ、ふるおけ、まくら木  非連続テキスト(写真) 看板、街灯、手すり、窓枠、入り口の戸、ベンチ(日本)  ↓ 日本独特の木のくらし (石・金属のくらし) 非連続テキスト(写真) 全く木材が使われていない(外国)	何が贈られてきたのかを本文(連続テキスト)をもとに考えさせる。  非連続テキストである写真も手がかりにすることで、たくさんの贈り物に囲まれていることをつかませる。  外国の町並みの写真を提示することで、森林の贈り物を受け取っているのは、日本であることを理解させる。  木に囲まれて生活している様子をまとめる表現として、「木のくらし」という言葉に着目させる。
まとめる	3 第1段落と第2段落を手がかりにすることで、「木のくらし」を営むことができた理由を考える。 国土の3分の2が森林(量の多さ) + 精一杯利用した(先人の知恵) ↓ 豊かな木のくらし 他国にくらべたくさんの森林がある(他の資料である円グラフから) 日本は67%が森林である 世界の国の森林の平均は、30%である。	日本人は、なぜ「木のくらし」を築くことができたのかを考えさせる。  3つの資料(教科書の文章、さし絵、円グラフ)をもとにして「木のくらし」を築くことができた理由を書く。  「木のくらし」を築けた理由を書くことができているか(ノート)  本文だけでなく、他の資料から理由を導きだしている児童も紹介する。  森林にめぐまれるという量と質の面と利用してきた知恵の面との両面があったことをつかませる。